

2020年6月15日

JLA 指導員・リーダー 各位

JLA アカデミー本部長 風間隆宏
JLA アカデミー ジュニアエデュケーション委員会
深谷徳香・石原早織・今井恵子・藤井正弘

ジュニアライフセービング バッジテスト 個人カルテ U-12(案)導入に向けて

現在、ジュニアライフセービング教育は、各地域クラブにて地域に根ざした形で発展してきていました。またサポーター講習会など各学校でのジュニアライフセービング教育も多く開催されています。今後、より全国各地でジュニアライフセービング教育を行っていく上で、その教育に関わるインストラクター育成は、重要となっています。

ジュニアエデュケーション委員会では、指導指針の発刊、リーダー資格の確立、ジュニアインストラクターの育成等の活動を行ってきました。しかしながら、2020年3月末現在、リーダー(263人)やジュニアインストラクター資格(インストラクター28人、アシスタントインストラクター10人)の取得者は横ばいの状況です。

その要因として、

- ① ジュニアライフセービング教育の未体系化
- ② リーダーやジュニアインストラクター資格の魅力不足、位置づけが不明確(資格が無くても活動可能)

などがあげられます。

それらを改善するために

- ① ジュニアライフセービング教育の体系化を目指した、バッジテスト(級別審査)の導入

水泳、スキーやスケート等のスポーツで実施されている「バッジテスト(級別審査)」を導入し、子供たちにライフセービングをより分かりやすく伝え、その後の目標がもてるような仕組みを構築する。

- ② 各資格の位置づけの明確化

バッジテストと各資格の位置づけを明確化し、ジュニアライフセービング教育に関わる指導者の質の向上を図る。

リーダー資格:バッジテストに向けたプログラムの指導

アシスタントインストラクター:バッジテストの指導・検定。リーダー資格講習会指導

インストラクター:バッジテストの指導・検定。リーダー資格講習会指導・検定

の導入を検討しています。

その第一段階として「ジュニアライフセービング バッジテスト 個人カルテ U-12」(案)を作成しました(作成:深谷徳香・石原早織・今井恵子・藤井正弘)。各地域のジュニアライフセービング教育の参考にして頂き、フィードバックを受けながら改善していきたいと考えています。

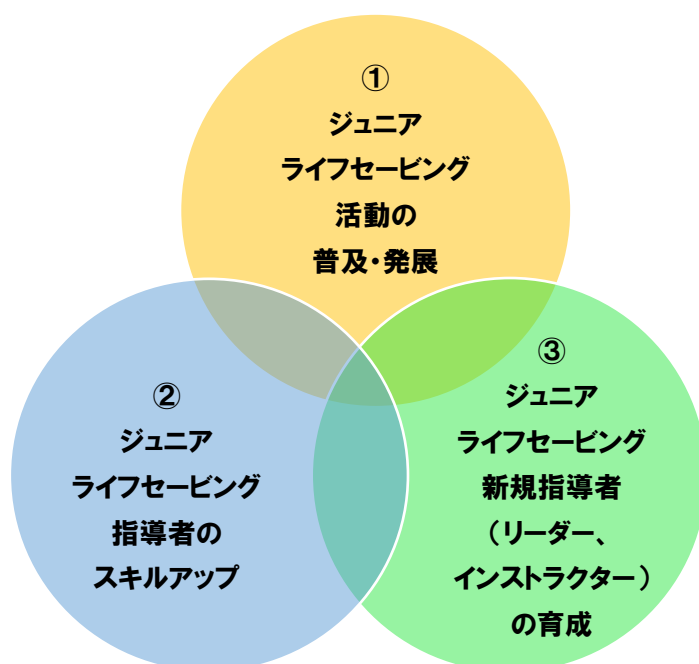
なお、「ジュニアライフセービングバッジテスト制度＝地域性を失う」という意味ではありません。「地域性は活かしつつ、より子供達につけたい力を明確にし、指導していくこと」がこの制度の最大の目的です。そのため、今回改訂した「ジュニアライフセービングテキスト」の活用や「防災教育」に更に力を注ぎ、日本独自の「ジュニアライフセービング教育＝いのちを守る教育」を根付かせていきたいと考えております。

今後、バッジテスト制度導入にあたり、ジュニアエデュケーション委員会では以下の項目を順次検討していきます。

1. リーダー講習会プログラムの改善(ジュニアライフセービング バッジテスト内容の導入)
2. インストラクター講習会プログラムの改善(ジュニアライフセービング バッジテスト内容の導入)
3. 既存ジュニアインストラクターへのジュニアライフセービング バッジテスト内容の周知
4. 競技会と、ジュニアライフセービングバッジテスト制度の融合
5. リーダー講習会の実施(ジュニアライフセービング教育に関わる人は取得を推奨)
6. インストラクター養成(各地域クラブに1人以上のジュニアインストラクター配置を目標)
7. 子供たちがジュニアライフセービングに触れる機会を増やす(E-learning 含む)
8. 認定証発行、申請、認定管理、認定料など制度設計
9. 導入時期の検討(2022 年度を目標)

ジュニアライフセービング指導に関わる指導員を含め、すべての指導員の皆様よりご意見をいただきよりよいものを創り上げていきたいと考えております。

<ジュニアライフセービング バッジテストの目的>



<バッジテスト認定までの流れ(案)>

指導

- ・各地のジュニアライフセービングプログラムへのバッジテスト制度導入
- ・指導にあたる者はリーダー資格以上の取得者を推奨

認定

- ・ジュニアインストラクターが定期的に認定
- ・例：定期活動の場合は1ヶ月～3ヶ月に1回程度の認定日の設定、単発の場合はその都度もしくは、各地域クラブの認定日に合流するには、「個人カルテ」と「認定カード<個人持ち>」を活用する

申請

- ・ジュニアインストラクターは、JLAへ申請し認定完了となる
- ・申請の方法、認定料（認定級により異なる）は現在検討中

